

横ばいで推移していた景気が悪化、先行きも慎重な見方が広がる

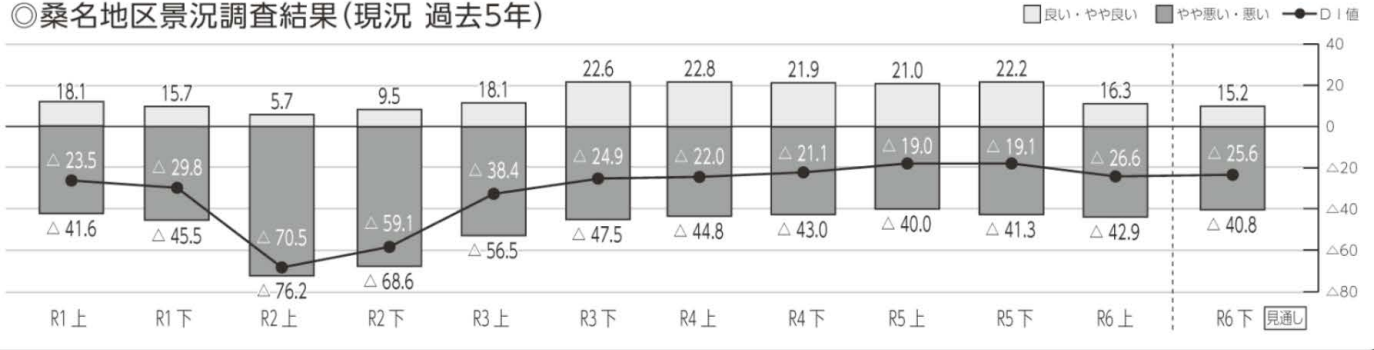
当所では、毎年2回、会員事業所(金融保険業を除く。)を対象に景況調査を実施しています。このほど令和6年上期景況調査の概要結果をまとめましたので報告いたします。

調査の概要

調査期間 6月25日～7月12日
 対象事業所数 1,714社
 回答事業所数 539社(回答率31.45%)
 調査方法 郵送によるアンケート方式

※DI値とは「良い・やや良い(増加)」-「やや悪い・悪い(減少)」の差を言います

◎桑名地区景況調査結果(現況 過去5年)



景気の現状と今後の見通し

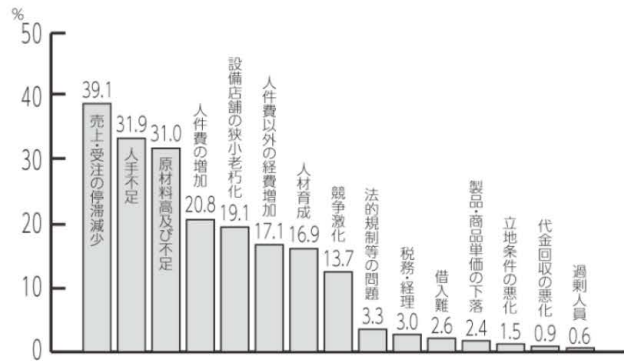
今回の調査では景気の現状について、「良い・やや良い」との回答が16.3%、「やや悪い・悪い」が42.9%で現状判断DI値は▲26.6となった。前期調査(▲19.1)と比べると7.5ポイント悪化となり、横ばいで推移していた景気が悪化する結果となった。

前期調査時の今後の景況見通しDI値は▲22.8であったため、見通しより3.8ポイント下回る結果となった。売上

状況DI値▲23.0%(前期▲14.7%)、利益状況DI値▲29.7%(前期▲24.6%)について、ともに悪化状況にあり、厳しい状況が続いている。

今後の見通しについては「良い・やや良い」との回答が15.2%、「やや悪い・悪い」が40.8%で、景気の見通しDI値は▲25.6となった。現状のDI値▲26.6と比較し1.0ポイント改善するものの厳しい見通しとなっている。

◎経営上困っている問題



◎経営上困っている問題(業種別)

()内は前期数値
 ※は同率順位

	第1位	第2位	第3位
製造業	売上・受注の停滞減少 55.4%(52.0%)	原材料高及び不足 35.8%(30.3%)	設備店舗の狭小老朽化 25.7%(23.7%)
建設業	人手不足 41.8%(50.5%)	原材料高及び不足 35.7%(41.9%)	売上・受注の停滞減少 34.7%(36.6%)
卸売業	売上・受注の停滞減少 38.9%(30.8%)	原材料高及び不足 36.1%(25.6%)	人手不足 25.0%(23.1%)
小売業	売上・受注の停滞減少 47.6%(58.0%)	原材料高及び不足 30.5%(26.1%)	人手不足 26.8%(26.1%)
飲食業	原材料高及び不足 58.3%(41.7%)	設備店舗の狭小老朽化 45.8%(12.5%)	人件費の増加 41.7%(37.5%)
サービス業	人手不足 34.2%(34.0%)	売上・受注の停滞 26.1%(24.7%)	設備店舗の狭小老朽化 22.5%(21.6%)
交通運輸業	人手不足 60.0%(69.2%)	人材育成 40.0%(30.8%)	人件費の増加 ※33.3%(15.4%) 法的規制等の問題 ※33.3%(7.7%)

経営上困っている問題(3項目選択)

経営上困っている問題については、「売上・受注の停滞減少」の回答が39.1%(前期39.2%)となり前期同様に第1位となった。第2位は「人手不足」31.9%(前期35.3%)、第3位に「原材料高及び不足」31.0%(前期27.8%)と続いた。

加えて、「人件費の増加」が20.8%(前期16.0%)に増加し、前期の第6位から第4位に上昇している。

業種別に「売上・受注の停滞減少」を見ると、製造業・卸売業・小売業が前期に引き続き第1位となり、「人手不足」については、建設業と交通運輸業で前期に引き続き第1位と

なっているのに加えて、サービス業においても第1位となった。

また、「原材料高及び不足」「人件費の増加」も大半の業種で回答が増加しており、需要の停滞に加えて、円安による原材料高や賃金引上げの影響など、経費全体の増加が幅広い業種に影響していることが、景況感を下押しする要因になったと思われる。

今後も原材料価格は為替動向によって左右されるほか、人手不足や物価高に起因する賃金の引き上げによって、人件費の増加が予想されることから、先行きも慎重な見方になったものと思われる。